

庁議の概要

開催日 令和7年4月28日（月）

◎項 目

- 1 未来を創る職員提案事業（ミライ箱）における課題提案のテーマの募集について
- 2 男性職員の育児休業に関する取組について
- 3 今週の動き

◎内容

- 1 未来を創る職員提案事業（ミライ箱）における課題提案のテーマの募集について
【総合企画部】

○総合企画部長

昨年8月から、未来を創る職員提案事業（ミライ箱）の事業を始めており、昨年度は、県勢浮揚につながる事業、歳入確保策、働き方改革や事務事業見直しにつながる取り組みなどについて自由提案で受け付けた。結果、22件の提案があり、内15件について採択又は既存の制度で対応できることから制度周知の徹底という整理をした。

今年度は、自由提案に加え、課題提案として各部局が抱える県政課題の解決に資する提案を募集する「課題提案」を設けることとした。

多くの職員から積極的な提案が出るよう、周知をお願いする。

- 2 男性職員の育児休業に関する取組について

○総務部長

男性職員の育児休業取得率について、1週間以上育児休業を取得した職員は93.6%であり、目標としていた85%は達成した。

今年度は、1ヶ月以上の育児休業取得率100%という目標としたので、目標達成に向けて各部局でも協力をお願いする。また、目標を100%としたので、例年お願いしてきた部局ごとの目標設定は廃止することとした。

育児休業を取得した場合、これまでは取得中の手取りは8割支給であったが、今年度からは、条件はあるが概ね10割支給が可能となった。また、休業中の職員の業務をサポートした職員に対し、支援実績に応じた勤勉手当の加算措置が執られることとなった。

これら制度改正点について周知していただき、職員が積極的に育児休業を取得できるよう、管理職がリーダーシップを発揮して声掛けをしていただきたい。

○知事

高知県では令和2年以降、全国に先駆けて男性職員の育児休業取得に力を入れて実績を上げているが、今では全国でこの取組が当たり前となっている。

今年度は1ヶ月以上の育児休業取得率100%という高い目標を設定したが、給料の補填的措置やサポート職員への勤勉手当制度を設けたので、各部局長のリーダーシ

ップを発揮して目標に向けて取り組んでいただきたい。

本県は連年、出生数が過去最低を更新しており、今後、地域社会が次の世代に引き継いでいけるのかという危機感を覚えている。経済の流れについては、これまでのコストカットではなく、多様な価値観を大切にしながら新たな価値を生み出していく社会にしていくことが求められる。働き方についても、仕事と家庭の両立が求められており、そのためにも時間外勤務の削減が課題となっている。時代に合わない仕事を削減することで仕事と家庭の両立や育児休業の取得に繋げていただきたい。

また、育児休業取得が共働き・共育での趣旨に沿う内容になるよう、取り組みの質を上げていただきたい。

3 今週の動き【各部局等】

〈主な協議の概要〉

○産業振興推進部長

4月29日から5月5日の間、大阪の「SUPER LOCAL SHOP とさとさ」において高知フェアを開催。関西万博関連の催事として田舎寿司PR、販売を行っている。なお、4月27日には関西万博の外出パビリオンにおいて高知の食のPRを行い、非常に好評であった。

○観光振興スポーツ部副部長

高知ユナイテッドS Cを応援するためのクラウドファンディング型ふるさと納税について、4月25日から7月23日の間、目標金額3千万円で寄付を受け付けている。4月28日現在、33名から約91万円の寄付を頂いている。引き続き、寄付への協力をお願いしたい。

○警察本部

今週の動きではないが、令和8年4月1日から、いわゆる自転車の青切符制度が始まる。急に自転車の運転を変えるのは難しいため、道路交通法を遵守した自転車運転について今から意識付けをするようお願いする。特に、自転車は一度停車するところ直しをする必要があるため、一時停止を守らないという傾向があるが、一時不停止は事故に直結する危険な違反でもあることから注意していただきたい。

○知事

大型連休に入ったが、計画的な休暇の取得と、災害等に備えた危機管理連絡体制の確保をお願いする。

現在、四国の新幹線の署名活動を実施している。四国の新幹線を実現するためには、四国四県が汗をかいて本気度を示す必要があることから、会合等の機会を捉えて、企業や団体に対して署名への協力をお願いしてもらいたい。

高知ユナイテッドS Cへのクラウドファンディング型ふるさと納税での応援であるが、県としても3千万円を上限に、寄付額と同額を高知ユナイテッドS Cへ出資することとなっているので、これについても周知をお願いする。